

かひさかん 喫茶店「可否茶館」

近隣 散歩策



写真 喫茶店発祥の地の碑

可否茶館は、1888年（明治21年）4月13日、東京の下谷西黒門町（現在の台東区上野）に実業家の鄭永慶^{ていえいけい}によって開業された日本初の喫茶店である。2階建ての洋館は、珈琲が飲める喫茶室だけでなく、ビリヤード、トランプやクリケットなどの遊具、更衣室、化粧室、シャワーまで完備されていた。海外渡航経験のある鄭が、欧化主義に驕れる上流階級のみを鹿鳴館を憂い、喫茶店を庶民の共通のサロン、知識の広場を理念とし、西洋の喫茶店のように多くの知識人が集まり交流する文化空間として広めようとした。

1892年（明治25年）、可否茶館は経営が振るわず、開店後わずか4年で閉店した。画期的な試みではあったが、時勢を先取りし過ぎたこと、なにより珈琲の価格が蕎麦で八厘程度に対し、珈琲は一銭五厘と一食分の食事代より高価な嗜好品であったことが閉店の要因であった。

現在可否茶館跡地には、コーヒーカップから湯気が立ち上がる雰囲気を表現したような意匠の記念碑（写真）が佇み、喫茶店発祥を後世に伝える。喫茶店は、単なる飲食店ではなく、鄭の信念が息づく庶民の憩いの場としていくつもの時代を超え、様々に形態を変えながらも、文化やコミュニケーションの場として人々に親しまれて続けている。

